

# 2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月8日

証券コード:5463

- I. 2025年3月期 第2四半期 決算概要 (P2-P10)
  - II. 単体および主要連結子会社の状況 (P11-P26)
  - III. 足元の事業環境認識 (P27-P29)
  - IV. 2025年3月期 業績見通しの修正 (P30-P37)
- ＜参考＞ESG情報 (P38-P45)

## 決算ポイント

- 上期決算は、営業利益計画160億円に対して130億円と30億円下回った。内、北米による市況下落に伴うスプレッドの悪化と在庫評価損(約15億円)を計上し減益
- 下期においても、単体の販売数量の落ち込みと丸ステンレス鋼管の半導体市況の回復遅れ、米国の上期赤字会社の状況を踏まえ、通期営業利益計画を期初予想342億円を252億円(90億円減)に修正(売上高・経常利益・当期純利益、共に下方修正)
- 配当金予想は2024年5月10日公表時の131円/株を据え置く

# I. 2025年3月期 第2四半期 決算概要

【単位：百万円】

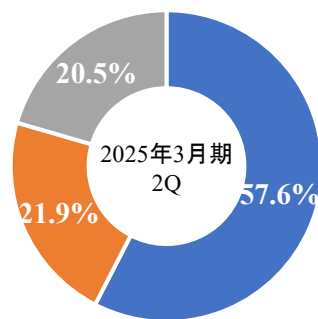
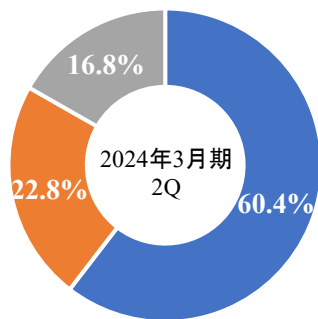
連結	2024年3月期実績			2025年3月期実績			前年 増減額	前年 同期比	上期 計画	上期 計画比
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期				
売上高	67,080	68,093	135,173	67,512	65,994	133,506	-1,667	-1.2%	138,500	-3.6%
営業利益	9,331	9,937	19,268	8,286	4,714	13,000	-6,268	-32.5%	16,000	-18.8%
経常利益	10,292	10,757	21,049	9,631	5,032	14,663	-6,386	-30.3%	17,500	-16.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,770	7,328	14,098	6,513	856	7,369	-6,729	-47.7%	9,200	-19.9%

上期計画は7月5日付開示  
期初より当期純利益のみ修正

- 販売数量は、全体で前年同期比1.6%減  
日本(単体)において4.6%減、北米は12.6%減と苦戦したものの、アジアは好調に推移し15.9%増と伸長
- 売上高は、連結で前年同期比1.2%減収  
日本は販売数量減により5.9%減収・北米も5.1%減収  
アジアは、SUNSCO(ベトナム)・KUMA(インド)・MPST(フィリピン)共に前年を上回り20.8%増収を達成
- 連結営業利益は、前年同期比32.5%減益  
単体は、スプレッドの維持が図れたものの、販売数量減・コストアップ要因もあり国内全体では19.5%減益  
北米は、スプレッドの悪化に加え在庫評価損の計上もあり大幅減益、アジアは各社好調に推移し43.1%増益
- 当期純利益は、前年同期比47.7%減益  
従業員に対する譲渡制限付株式(RS)の付与による特別損失38.5億円を計上

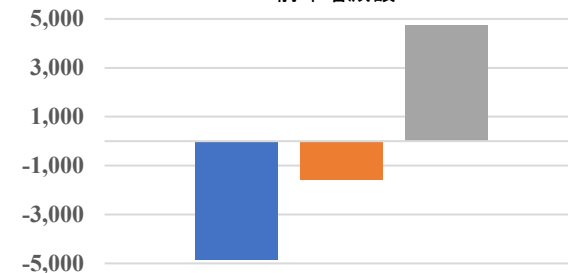
【単位：百万円】

売上高	2024年3月期実績			2025年3月期実績			前年 増減額	前年 同期比	上期 計画	上期 計画比
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期				
日本	41,429	40,268	81,697	38,635	38,233	76,868	-4,829	-5.9%	81,965	-6.2%
北米	14,809	16,018	30,827	15,284	13,985	29,269	-1,558	-5.1%	30,024	-2.5%
アジア	10,840	11,808	22,648	13,592	13,776	27,368	4,720	20.8%	26,511	3.2%
合計	67,080	68,093	135,173	67,512	65,994	133,506	-1,667	-1.2%	138,500	-3.6%



(単位：百万円)

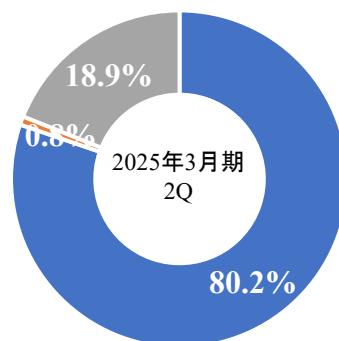
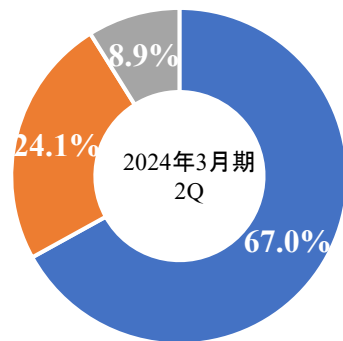
前年増減額



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア

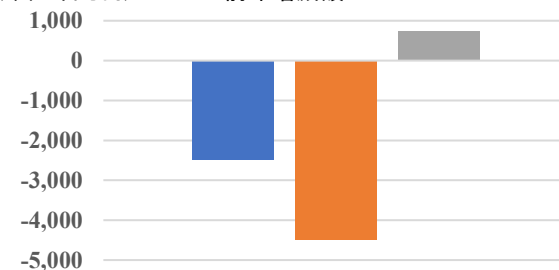
【単位：百万円】

営業利益	2024年3月期実績			2025年3月期実績			前年 増減額	前年 同期比	上期 計画	上期 計画比
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期				
日本	6,662	6,092	12,754	5,205	5,056	10,261	-2,493	-19.5%	10,699	-4.1%
北米	1,467	3,128	4,595	1,752	-1,647	105	-4,490	-97.7%	2,922	-96.4%
アジア	1,106	588	1,694	1,194	1,229	2,423	729	43.1%	2,237	8.3%
調整額	94	130	224	133	78	210	-14	—	142	—
合計	9,331	9,937	19,268	8,286	4,714	13,000	-6,268	-32.5%	16,000	-18.8%



(単位：百万円)

前年増減額



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア



## 日本

- 販売数量は、単体で前年同期比4.6%減  
引き続き中小建築物の低迷により建築構造用の販売数量は8.6%減  
機械構造用は自動車生産の不正問題からの停滞もあり4.5%減
- 販売単価は弱含みで推移  
需要が低迷する中、一部ユーザーや店売りで製造コストや運送費アップ分の一部転嫁が実現できたが、全体的には進捗に遅れ、市況の悪化により弱含み
- 売上高は、前年同期比5.9%減収  
単体が数量減から減収、丸ステンレス鋼管もBA管の数量減により減収
- 営業利益は、前年同期比19.5%減益  
単体の数量減により人件費等の固定費負担増および運送費等のコストアップで減益。丸ステンレス鋼管もBA管の高採算品などの数量減に加え在庫評価差額もあり減益

## 北米

- 米国のホットコイル(HRC)価格は、年初1,210ドル/トンでスタートしたものが下がり始め、6月末には743ドルまで下がり続けたことにより(21ページグラフ参照)、米国4社はスプレッドが悪化
- 販売数量は、米国4社が価格下落の中で客先の様子見からの当用買いで前年同期比12.6%減  
MMX社(メキシコ)は、日系自動車メーカーの販売が好調で27.3%増
- 売上高は、販売数量の減少から前年同期比5.1%減収
- 営業利益は、前年同期比97.7%減益  
MMX社は2.2倍の増益となったものの米国4社でのスプレッドの悪化に加え、6月末のHRC価格の下落に伴う在庫評価損(約15億円)が発生し、北米全体では大幅な減益

## アジア

- SUNSCO社(ベトナム)の販売数量は、全体で前年同期比15.6%増  
ホーチミンは、引き続き輸出を強化したことにより16.5%増  
ハノイは、日系二輪メーカーの販売台数減少から1.4%減
- KUMA社(インド)は、四輪車・二輪車販売が好調で販売数量は前年同期比6.5%増
- MPST社(フィリピン)は、二輪メーカーの現地生産の拡大を背景に受注を確実に取込み、販売数量は前年同期比96.0%と大幅に増加
- アジアセグメントの売上高は、各社が増収を確保したことにより前年同期比20.8%増収
- 営業利益は、SUNSCO社とKUMA社の増益に加え、MPST社も大幅に伸長し前年同期比43.1%増益

## II. 単体および主要連結子会社の状況

【単位：百万円】

	売上高										
	24/3期					25/3期					
	1Q	2Q	上期実績	3Q	4Q	1Q	2Q	上期実績	前年比	上期計画	計画比
丸一鋼管	30,951	31,072	62,023	31,946	31,400	30,129	29,520	59,649	-3.8%	64,395	-7.4%
丸ステンレス	7,857	6,804	14,661	6,551	6,647	6,296	6,411	12,707	-13.3%	13,407	-5.2%
その他国内子会社	3,783	3,734	7,517	4,107	3,702	3,493	3,297	6,790	-9.7%	7,225	-6.0%
LEAVITT(北米)	6,538	6,818	13,356	6,132	5,441	6,144	5,557	11,701	-12.4%	12,209	-4.2%
MNT(北米)	1,167	1,125	2,292	1,174	1,200	947	960	1,907	-16.8%	2,012	-5.2%
MAC(北米)	3,545	4,232	7,777	3,762	3,612	4,303	3,759	8,062	3.7%	8,470	-4.8%
MOST(北米)	2,203	2,497	4,700	1,779	1,786	2,230	1,824	4,054	-13.7%	4,345	-6.7%
MST-X(北米)	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—
MMX(メキシコ)	1,087	1,150	2,237	1,345	1,342	1,655	1,775	3,430	53.3%	2,988	14.8%
SUNSCO(ベトナム)*	7,989	8,600	16,589	9,581	10,240	9,946	10,304	20,250	22.1%	18,583	9.0%
KUMA(インド)	2,810	3,203	6,013	3,067	3,646	3,363	3,117	6,480	7.8%	6,717	-3.5%
MPST(フィリピン)	326	289	615	415	621	608	701	1,309	112.8%	1,211	8.1%
連結調整	-1,176	-1,431	-2,607	-1,439	-1,921	-1,602	-1,231	-2,833	—	-3,062	—
合計	67,080	68,093	135,173	68,420	67,717	67,512	65,994	133,506	-1.2%	138,500	-3.6%

\* SUNSCO(ベトナム)は、ホーチミンとハノイの合算となっております

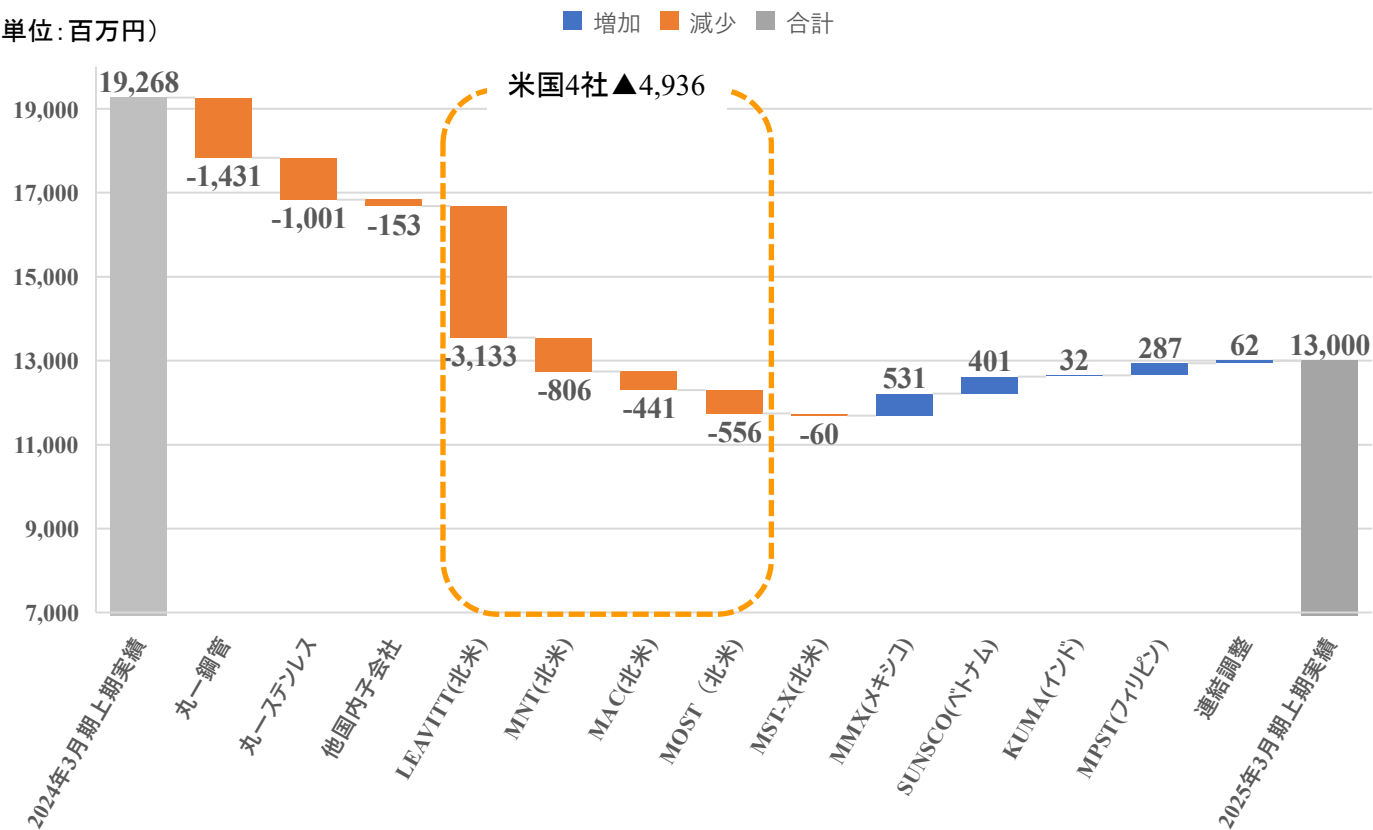
【単位：百万円】

	営業利益										
	24/3期					25/3期					
	1Q	2Q	上期実績	3Q	4Q	1Q	2Q	上期実績	前年比	上期計画	計画比
丸一鋼管	4,890	4,757	9,647	4,874	4,505	4,125	4,091	8,216	-14.8%	8,424	-2.5%
丸ーステンレス	1,195	852	2,047	899	874	407	639	1,046	-48.9%	1,170	-10.6%
その他国内子会社	511	489	1,000	610	91	515	332	847	-15.3%	1,105	-23.3%
LEAVITT(北米)	718	1,296	2,014	-32	-707	420	-1,539	-1,119	—	457	—
MNT(北米)	91	187	278	-35	-91	68	-596	-528	—	61	—
MAC(北米)	365	1,000	1,365	407	452	742	182	924	-32.3%	1,383	-33.2%
MOST(北米)	126	477	603	-33	-97	157	-110	47	-92.2%	321	-85.4%
MST-X(北米)	-9	-25	-34	-21	-37	-62	-32	-94	—	-81	—
MMX(メキシコ)	206	234	440	322	326	491	480	971	120.7%	781	24.3%
SUNSCO(ベトナム)*	772	280	1,052	1,050	1,061	704	749	1,453	38.1%	1,169	24.3%
KUMA(インド)	263	279	542	263	355	304	270	574	5.9%	684	-16.1%
MPST(フィリピン)	71	50	121	91	184	193	215	408	237.2%	384	6.3%
連結調整	132	61	193	36	196	222	33	255	—	142	—
合計	9,331	9,937	19,268	8,431	7,112	8,286	4,714	13,000	-32.5%	16,000	-18.8%

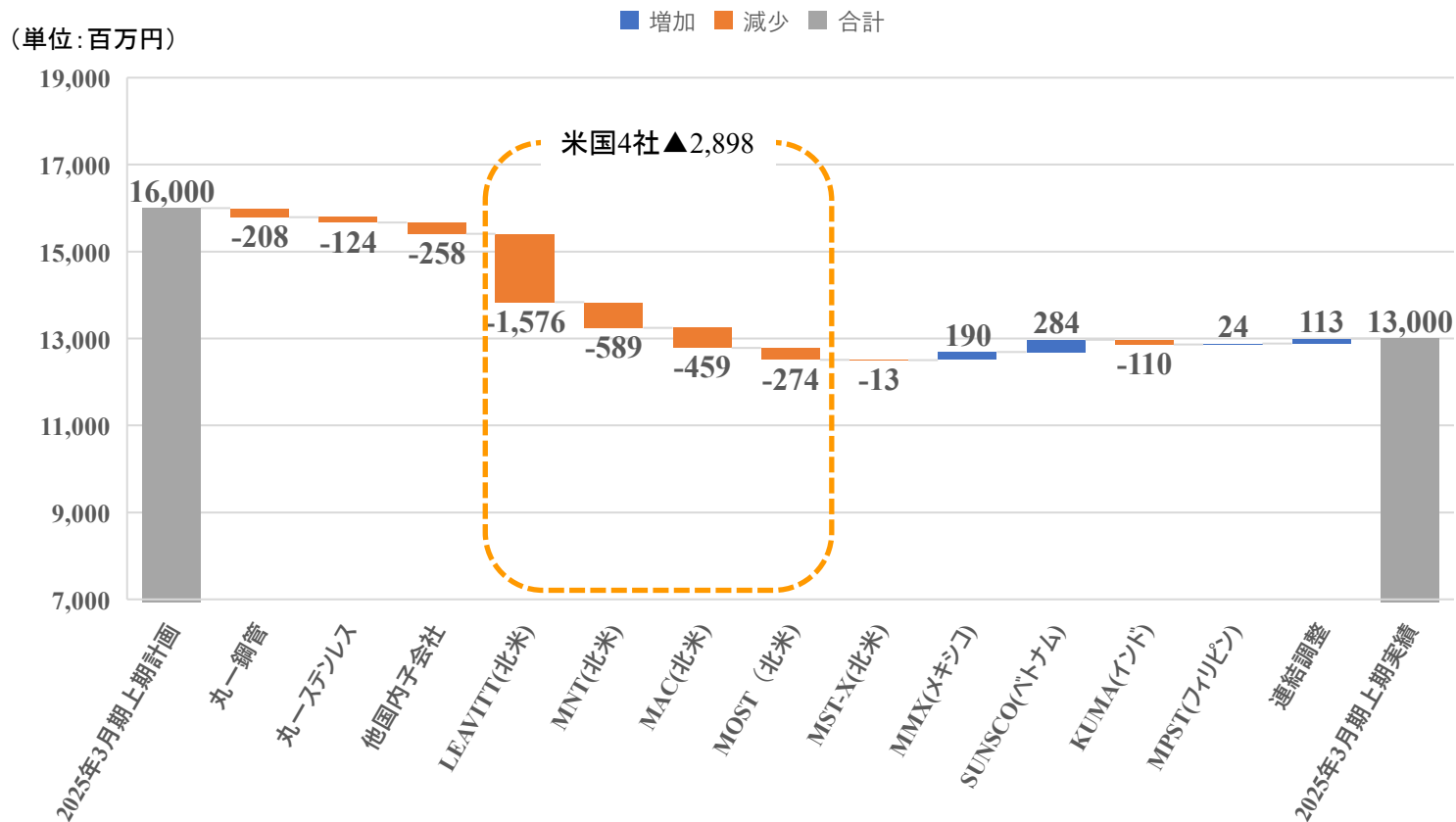
\* SUNSCO(ベトナム)は、ホーチミンとハノイの合算となっております

➤ 丸一鋼管と丸ステンレス鋼管、米国4社で大幅減益

(単位:百万円)

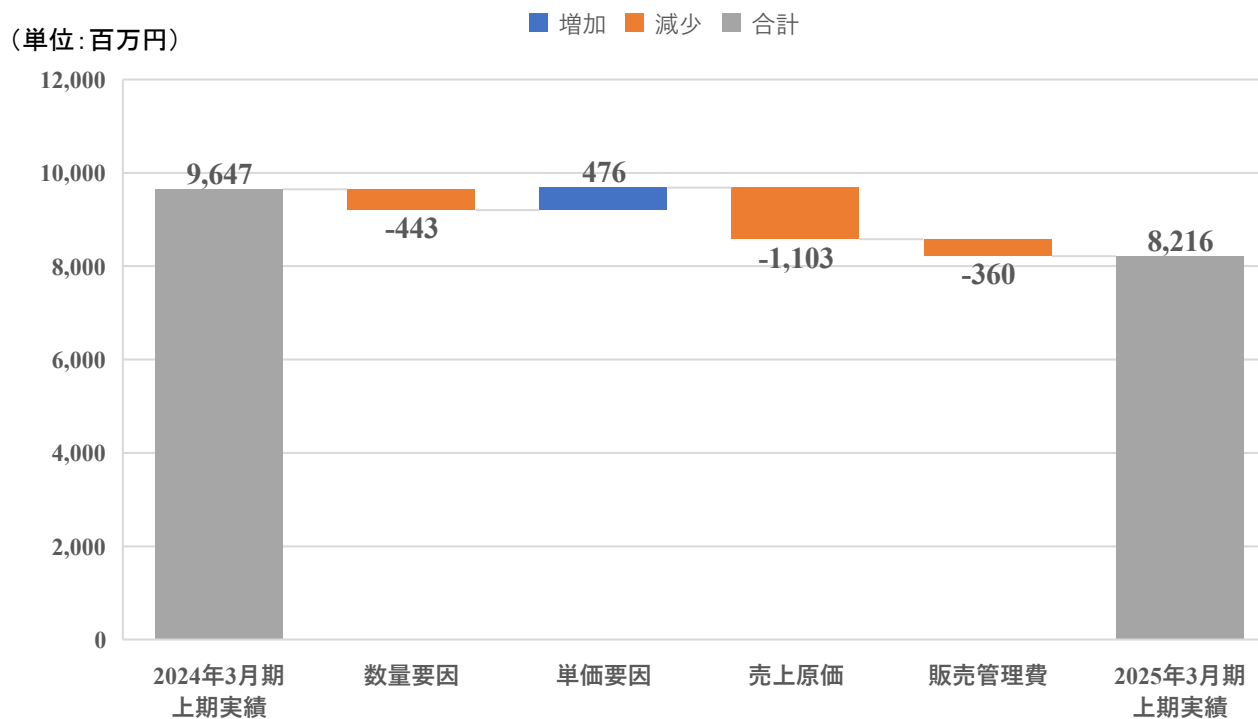


➤ 上期計画からは米国4社をはじめ30億円の減益

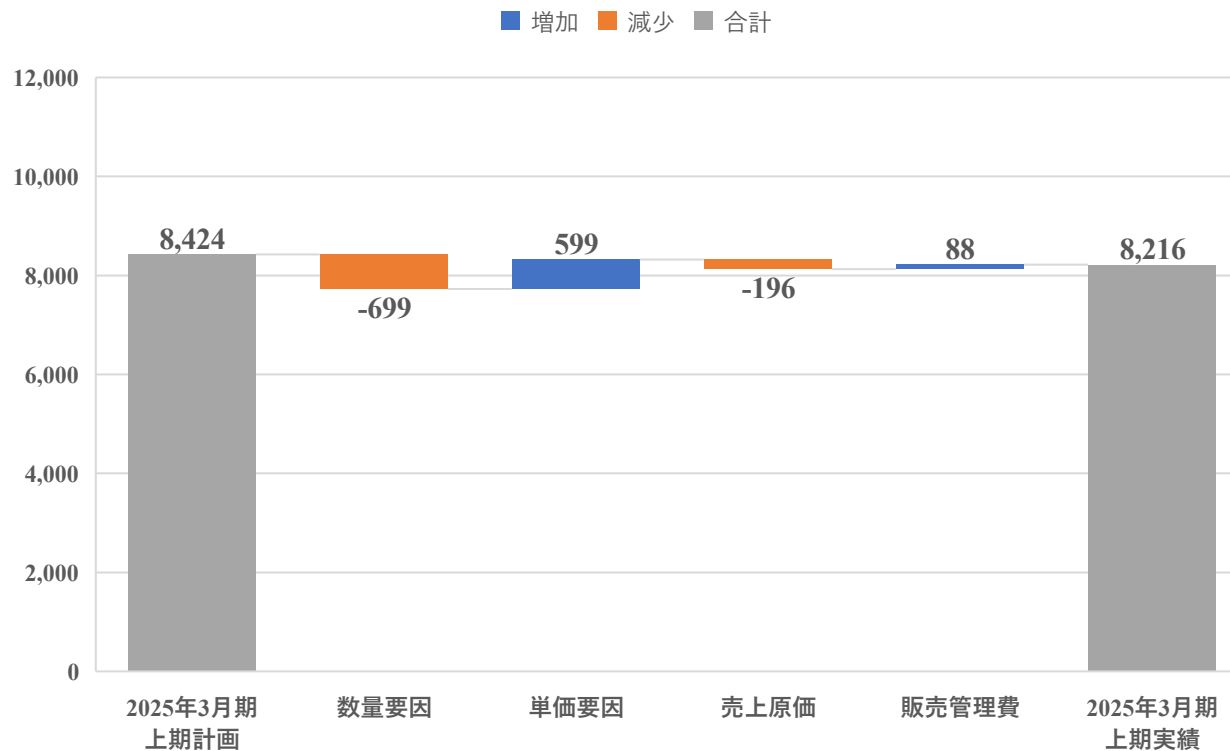




- 販売数量は、326千トンとなり前年比4.6%の減少



(単位:百万円)



- 単体の販売数量は前年同期比4.6%減。引き続き中小建築案件の低迷により建築構造用が8.6%減  
自動車生産の低迷もあり、機械構造用は4.5%減
- 海外は、米国4社が12.6%減。四輪車・二輪車用を主としたMMX・KUMA・MPSTと輸出を主とした  
SUNSCOが引き続き好調

販売数量 単位:トン		24/3期							25/3期			
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	前年比
丸一鋼管	建築構造用	104,500	99,148	203,648	99,221	96,629	195,850	399,498	96,335	89,746	186,081	-8.6%
	機械構造用	34,055	34,706	68,761	38,383	34,129	72,512	141,273	33,455	32,187	65,642	-4.5%
	その他	33,211	36,545	69,756	37,992	40,128	78,120	147,876	36,404	38,320	74,724	7.1%
	小計	171,766	170,399	342,165	175,595	170,885	346,480	688,645	166,194	160,253	326,447	-4.6%
米国(4社)	LEAVITT	36,055	31,664	67,719	30,357	29,146	59,503	127,222	28,942	28,883	57,825	-14.6%
	MNT	6,658	5,446	12,104	6,533	6,955	13,488	25,592	4,773	5,687	10,460	-13.6%
	MAC	16,509	17,487	33,996	16,202	15,967	32,169	66,165	16,936	15,839	32,775	-3.6%
	MOST	10,843	10,608	21,451	7,663	7,691	15,354	36,805	9,257	7,961	17,218	-19.7%
	小計	70,065	65,205	135,270	60,755	59,759	120,514	255,784	59,908	58,370	118,278	-12.6%
	MMX(メキシコ)	3,402	3,406	6,808	3,776	3,723	7,499	14,307	4,329	4,338	8,667	27.3%
	SUNSCO(ベトナム)	55,867	55,842	111,709	64,184	68,453	132,637	244,346	65,285	63,875	129,160	15.6%
	KUMA(インド)	8,165	9,022	17,188	8,392	9,596	17,988	35,176	9,157	9,141	18,298	6.5%
	MPST(フィリピン)	1,230	1,110	2,340	1,551	2,269	3,820	6,160	2,158	2,431	4,589	96.1%
	合計	310,496	304,984	615,480	314,253	314,685	628,938	1,244,418	307,030	298,408	605,438	-1.6%

【単位：百万円】

業績 推移	2024年2月期実績						2025年2月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	12,022	11,581	23,603	11,915	10,910	46,428	11,679	10,783	22,462	-4.8%	44,346	50.7%
営業利益	339	263	602	250	76	928	276	223	499	-17.1%	761	65.6%

通期計画は11月8日付の修正計画

- 販売単価は前年に対して若干高い水準であるが、上期販売数量は、前年比5.0%減となり、売上高は前年同期比4.8%減。営業利益はコストアップ要因などから17.1%減
- 2024年問題に起因する運賃の高騰、賃金引上げによる人件費増加等のコストアップをカバーするため価格転嫁に注力
- 販売数量の増加を図るべく、ユーザー取引の新規獲得と既存取引先のシェアアップを強化



【単位：百万円】

業績 推移	2024年3月期実績						2025年3月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	7,857	6,804	14,661	6,551	6,540	27,752	6,296	6,411	12,707	-13.3%	26,956	47.1%
営業利益	1,195	852	2,047	899	874	3,820	407	639	1,046	-48.9%	2,500	41.8%

通期計画は11月8日付の修正計画

- AI関連需要に牽引され、2024年8月の世界半導体売上は前年同月比約20.6%増・前月比約3.5%増と順調に回復傾向を示しているものの、半導体工場の建設計画には遅れが目立つ
- そのためValex社の在庫調整も進まず、BA管の受注量は計画を下回る状態が続く
- SUS管は国内石油化学関連の需要が落ち込んでいるものの、代替燃料船向け配管の受注が増加
- 輸出向けは、米国在庫問屋向け配管の受注が堅調に推移  
航空機分野向け母管も堅調



Maruichi Stainless Tube Texas Corporation (MST-X)  
2025年下期商用稼働予定

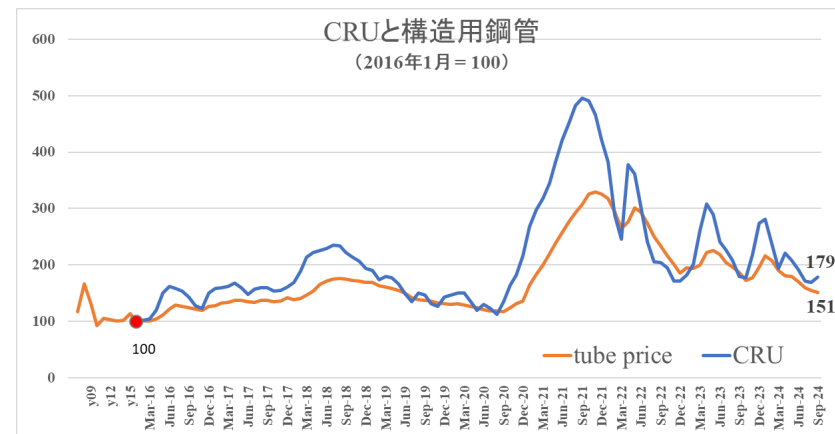
(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2023年12月期実績						2024年12月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	57,130	56,682	113,812	49,068	42,739	205,619	46,765	40,813	87,578	-23.1%	159,162	55.0%
営業利益	6,211	10,974	17,185	-794	-4,747	11,644	3,370	-14,002	-10,632		-15,353	

通期計画は11月8日付の修正計画

- 6月末頃からCRU価格の下落が落ち着てきた模様であるが、販売価格や販売数量が増加に転ずるほどの勢いは感じられない
- 農機具メーカーは、引き続き販売不振であり、大手では製造現場のレイオフを続けている
- 配管用鋼管は、建築構造用鋼管に比べると良い状況  
米国大統領選挙以降の政策が明らかになるまで大きな変化はないというのが一般的な見方

(指数)



(単位: US \$ thousand)

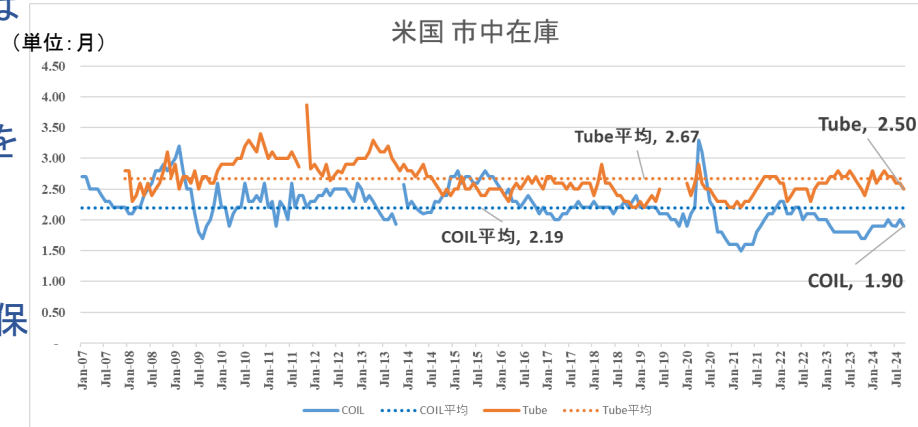
業績推移	2023年12月期実績						2024年12月期						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率	
MAC	売上高	26,624	30,702	57,326	25,665	23,901	106,892	27,532	22,834	50,366	-12.1%	94,566	53.3%
	営業利益	2,760	7,360	10,120	2,707	2,830	15,657	4,993	1,072	6,065	-40.1%	9,358	64.8%
MOST	売上高	16,097	17,737	33,834	11,604	11,548	56,986	14,716	11,337	26,053	-23.0%	44,881	58.0%
	営業利益	951	3,522	4,473	-348	-486	3,639	1,058	-740	318	-92.9%	-544	

- 1～6月迄は年初からCRU価格下げ相場であったため、高コストの原料がスプレッドを圧縮していく傾向にあったが、7月後半に底を認めてから徐々に採算は改善傾向

通期計画は11月8日付の修正計画

- 価格下落局面に対応すべく、在庫数量の適正管理を徹底したことにより、スプレッドの回復にも比較的柔軟に対応

- MACにおいては年間を通して安定的な受注量を確保できている。一方、北西部市場の動きは非常に緩慢で、MOSTの数量回復に時間がかかっているが、スプレッドの早期健全化の為、引続き在庫圧縮に努める





(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2023年12月期実績						2024年12月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	8,213	8,376	16,589	9,344	9,099	35,032	11,137	11,391	22,528	35.8%	43,284	52.0%
営業利益	1,740	1,882	3,622	2,419	2,204	8,245	3,432	3,175	6,607	82.4%	11,807	56.0%

通期計画は11月8日付の修正計画



ヌエボ・レオン州モンテレイ  
MMX第2工場 2025年4月稼働予定

- 2Q(4-6月)の国内総生産(GDP)速報値は、前年比0.2%増と1Q(1-3月)と同レベル  
但し、高金利や物価高、最近のメキシコペソ安による競争力低下などを背景に今後の成長ペースは減速が続く
- 2Qのメキシコの自動車生産は111.7万台と前年比8%増。日系メーカーにおける製造車種の北米販売が好調なため、現行車種のライフタイムの延長が確定。日系メーカーを主体とするMMXの安定した販売が継続
- 2023年の海外からのメキシコへの直接投資額は360億5,800万ドルで、同統計史上の最高額を記録した直近の推移をみると、新型コロナウイルス禍に突入した2020年を底に、3年連続で投資額は増えている  
その一方でメキシコでは、進出企業の増加に伴い、雇用環境の悪化や、不動産の高騰など、ビジネス環境は年々悪化

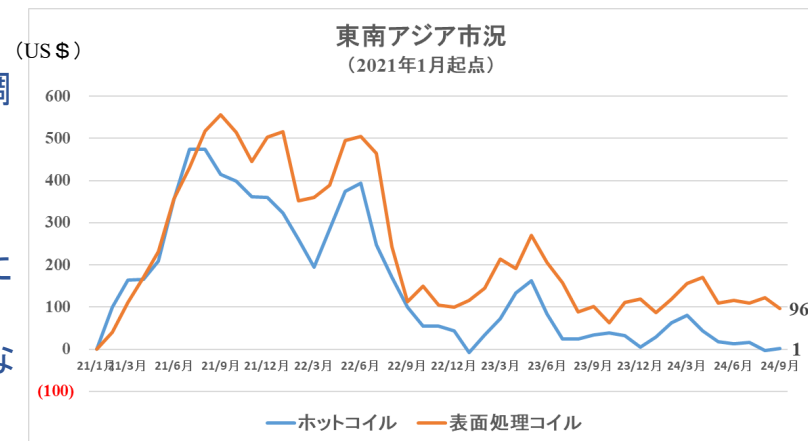


(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2023年12月期実績						2024年12月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	60,306	62,579	122,885	66,447	69,705	259,037	66,978	66,141	133,119	8.3%	258,588	51.5%
営業利益	4,212	340	4,552	5,801	5,595	15,948	4,398	4,476	8,874	94.9%	12,960	68.5%

通期計画は11月8日付の修正計画

- 2Q(4-6月)の販売数量は1Q(1-3月)に続き輸出が好調で、ホーチミンでは前年比15%増の53千トン  
一方、ハノイでは日系二輪メーカーの販売は依然として低調なもの、前年比ほぼ横ばいの2.8千トン  
2Qの営業利益は4.5百万ドルと前年比からは大幅に改善
- 引き続きベトナム国内および欧州・豪州向けビジネス拡大に注力  
また欧州向けビジネス拡大にはCO2削減に向けた具体的な取組みが不可欠となっており、精力的に活動中



(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2024年3月期実績						2025年3月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	20,787	22,550	43,337	21,108	24,624	89,069	21,867	21,115	42,982	-0.8%	85,059	50.5%
営業利益	1,904	2,045	3,949	1,826	2,220	7,995	1,941	1,789	3,731	-5.5%	7,742	48.2%

通期計画は11月8日付の修正計画

- 通常インドの2Q(4-6月)は、祭事特需シーズンにあたり二輪車・四輪車ともに販売増が見られるが、本年度においては、需要鈍化と各自動車メーカーの在庫調整により、四輪車において販売増が見られず四輪各社で前年比1.8%減の販売状況
- コロナ禍の落ち込みから回復途上にある二輪車市場は前年比12.6%増の成長が続く
- 中大型商用車の販売も四輪車と同様前年比11.7%減の販売状況
- EV販売は補助金減の影響で前年と同レベルで大きな販売増はない  
販売台数に占めるEV車の割合は四輪車で1.8%・二輪車で5.7%



グジャラート工場に2インチミル生産設備を導入  
2025年4月稼働予定

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2023年12月期実績						2024年12月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比	通期計画	進捗率
売上高	2,466	2,094	4,560	2,901	4,284	11,744	4,091	4,506	8,598	88.6%	18,496	46.5%
営業利益	533	361	894	642	1,281	2,817	1,299	1,382	2,681	199.8%	5,899	45.4%

通期計画は11月8日付の修正計画

- 2Q(4-6月)のフィリピン二輪販売台数は前年比 14.3%増  
高金利の中でも経済成長が続いているため、底堅い売れ行きを維持
- インフレの改善、米ドルに対してペソ安になり海外出稼ぎ労働者を含む在外フィリピン人からの送金が相対的に増えていることも消費を下支えする要因
- 2Qの販売数量は前年比で2倍以上、昨年末より開始された現調化機種種の生産が好調で上期96.1%増と好調  
今後の需要拡大を見込み2インチミルを完備した第2工場を建設中

完成予想図

MPST第2工場・2インチミル完備  
2026年1月稼働予定

# III. 足元の事業環境認識

## 国内 需要

### 鋼板類

- 国内需要は、データセンター、物流倉庫、大型物件関係は堅調であるが、全体的に荷動きが悪く、中小物件は減少傾向。鋼板価格は自動車向け値下げ、安価な輸入材の影響から先安感が出ている
- 輸入増加により、当社めっきコイル販売も、先安感から数量・価格の維持が難しい状況となっているが、大型倉庫用途・屋根材用途・表面処理鋼板の拡販に注力

### 鋼管類

- 建築関連・・・中小物件の需要が厳しく、荷動きは低調。中径杭は、新規サイズの大型案件を受注しているものの延期物件があり、荷動きは低調
- 自動車関連・・・自動車生産台数の低迷により、パイプも低調
- 農業関連・・・全国的に事業物件が少なく、客先は在庫補充主体で数量は低調
- 造船関連・・・生産は引き続き堅調。造船メーカー各社は堅調な荷動きが続いており、2028年まで工程は埋まっている状況
- 建機・農機関連・・・国内・輸出ともに販売低迷のため、荷動き低調

海外  
需要

北米

- 大統領選を終え鉄鋼市場は今後の政策等が明らかになるまで様子見の状況であるが、需要そのものは堅調に推移。特に大きな影響を受けるのはOil&Gas分野で、同市場はホットコイルなど板製品と強く関連性が認められる為、引続き市場を注視
- FRB金利政策に対しても市場は冷静に対応できており、今後の鉄鋼製品需要に大きな影響を与えているとは考えられない
- ホットコイル市況は年明けから下げ局面となり、その後、一進一退を繰り返してきたが、直近では700US\$/ST台まで回復

ベトナム

- 24年度3Q(7-9月)の実質GDP成長率は7.4%と9月にベトナム北部を襲った台風11号(ヤギ)の影響による経済減速の影響は見られず、2期連続で前年比を上回った。2Q(4-6月)に続き、製造業が経済を牽引
- ホットコイル市況は1月をピークに9月初旬まで下がり続け、その間、約140ドルほど下落。漸く9月以降、上昇に転じ、9月下旬に発表された中国当局による金融緩和や住宅購入制限の見直し等により中国市況は一時的に反応したがすぐに下落。中国材の影響を受けて価格下落圧力が高まる
- 9/25に米国商務省がベトナムを含む10カ国からの表面処理鋼板に対してA/DおよびCVDの調査を開始すると正式発表。ベトナム全体で1-6月約50万ト(前年比3倍以上)の表面処理鋼板が米国に輸出されており、影響は甚大

中国

- 中国経済の景気は、足元好調な輸出(EVに対する海外需要の増加等)に支えられているが、内需は総じて停滞
- 乗用車販売について、8月の販売台数は3カ月連続で前年割れ、メーカーの値下げ競争が販売を押し上げてきたものの、足元では値下げ競争にも息切れ感がある
- 不動産の低迷により、鋼材内需が冷え込み、鉄鋼各社は輸出に注力。鋼材価格は安値で推移

# IV. 2025年3月期 業績見通しの修正

- 単体の販売数量の落ち込みと丸ステンレス鋼管の半導体市況の回復遅れから厳しい状況を見込む
- 上期に赤字だった北米各社の年間での黒字化は難しい状況。赤字幅の圧縮に取り組む
- 配当金予想は2024年5月10日公表時の131円/株を据え置く

【単位：百万円】

連結	2024年3月期実績			2025年3月期			通期 前年比 増減額	通期 前年 同期比	通期 計画	通期 計画比
	上期	下期	通期	上期 実績	下期 修正計画	通期 修正計画				
売上高	135,173	136,137	271,310	133,506	124,494	258,000	-13,310	-4.9%	280,000	-7.9%
営業利益	19,268	15,543	34,811	13,000	12,200	25,200	-9,611	-27.6%	34,200	-26.3%
経常利益	21,049	17,306	38,355	14,663	12,737	27,400	-10,955	-28.6%	36,200	-24.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	14,098	12,015	26,113	7,369	10,431	17,800	-8,313	-31.8%	21,600	-17.6%

ROE予想 5.0%

通期計画は7月5日付開示



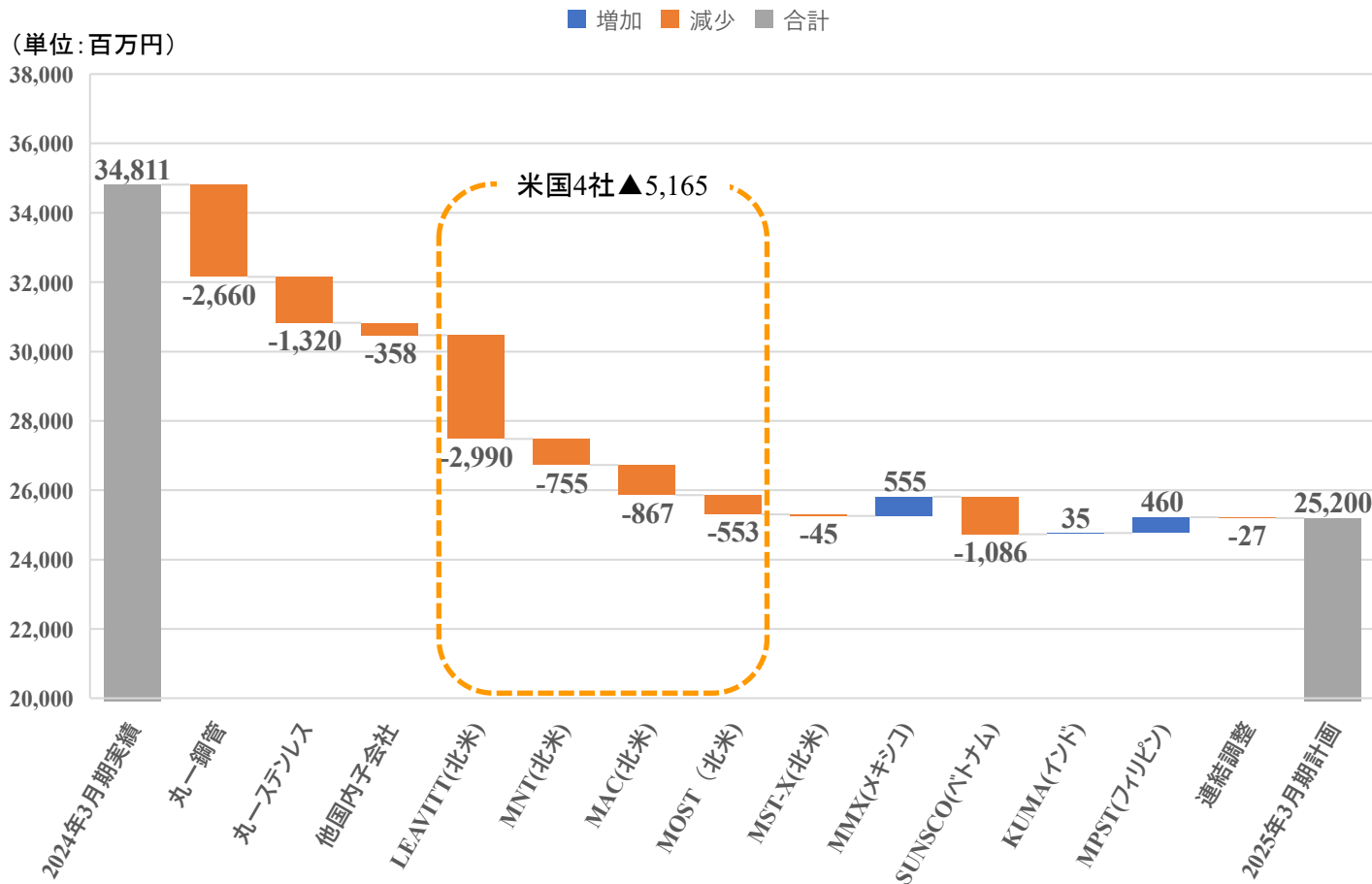
【単位：百万円】

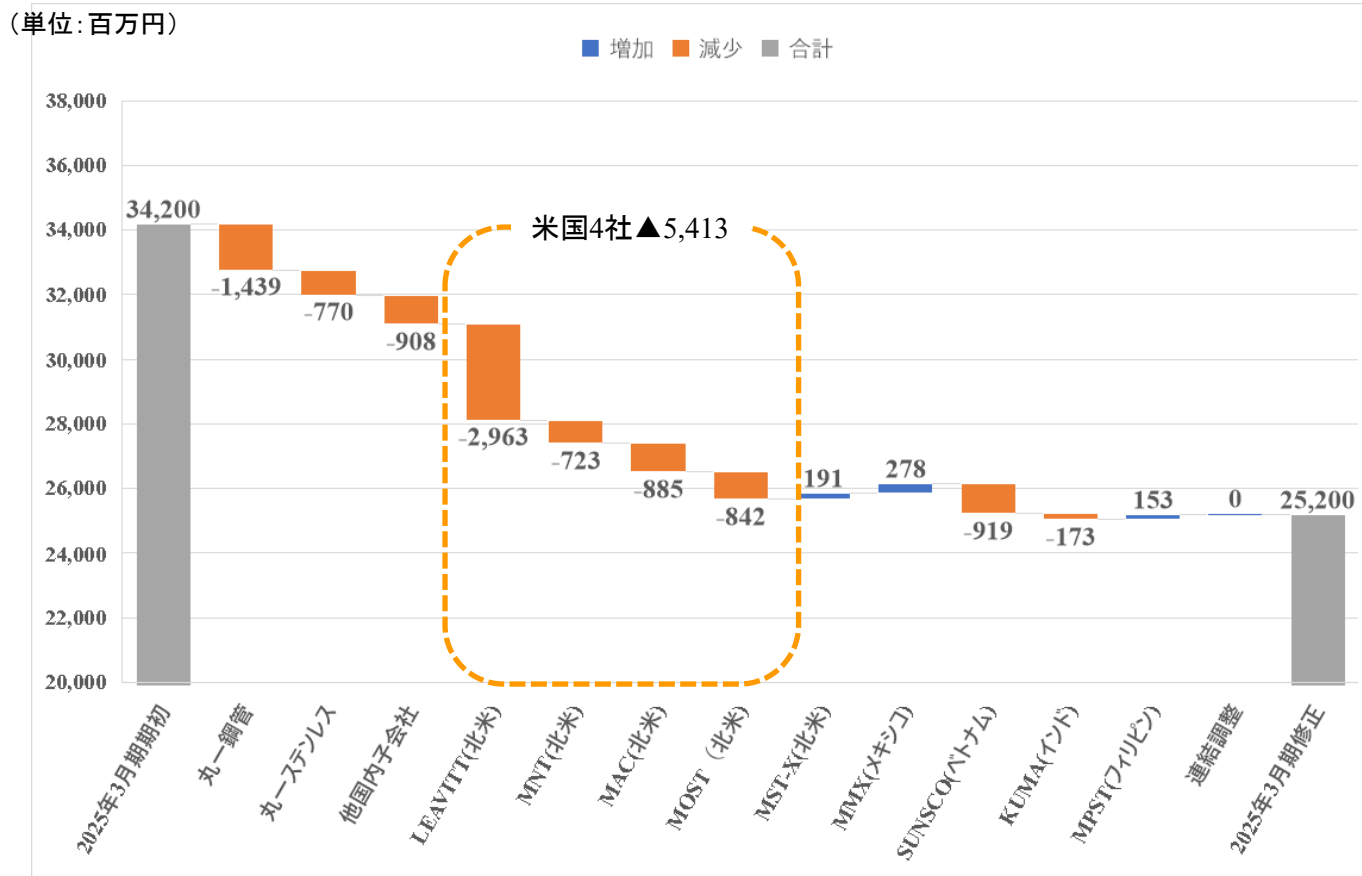
売上高	2024年3月期実績			2025年3月期			通期 前年比 増減額	通期 前年 同期比	通期 計画	通期 計画比
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想				
日本	81,697	81,098	162,795	76,868	77,182	154,050	-8,745	-5.4%	168,237	-8.4%
北米	30,827	28,039	58,866	29,269	21,553	50,822	-8,044	-13.7%	59,067	-14.0%
アジア	22,648	27,000	49,648	27,368	25,760	53,128	3,480	7.0%	52,696	0.8%
合計	135,173	136,137	271,310	133,506	124,494	258,000	-13,310	-4.9%	280,000	-7.9%
営業利益	2024年3月期実績			2025年3月期			通期 前年比 増減額	通期 前年 同期比	通期 計画	通期 計画比
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想				
日本	12,754	11,964	24,718	10,261	9,948	20,209	-4,509	-18.2%	23,326	-13.4%
北米	4,595	345	4,940	105	360	465	-4,475	-90.6%	5,409	-91.4%
アジア	1,694	2,999	4,693	2,423	1,705	4,128	-565	-12.0%	5,067	-18.5%
調整額	224	235	459	210	188	398	-61	—	398	—
合計	19,268	15,543	34,811	13,000	12,200	25,200	-9,610	-27.6%	34,200	-26.3%

通期計画は  
7月5日付開示

【単位：百万円】

	売上高							営業利益						
	24/3期実績			25/3期				24/3期実績			25/3期			
	上期	下期	通期	上期実績	下期計画	通期計画	前年比	上期	下期	通期	上期実績	下期計画	通期計画	前年比
丸一鋼管	62,023	63,346	125,369	59,649	60,484	120,133	-4.2%	9,647	9,379	19,026	8,216	8,150	16,366	-14.0%
丸一ステンレス	14,661	13,198	27,859	12,707	14,249	26,956	-3.2%	2,047	1,773	3,820	1,046	1,454	2,500	-34.6%
その他国内子会社	7,517	7,809	15,326	6,790	6,637	13,427	-12.4%	1,000	701	1,701	847	496	1,343	-21.0%
LEAVITT(北米)	13,356	11,573	24,929	11,701	8,360	20,061	-19.5%	2,014	-739	1,275	-1,119	-596	-1,715	—
MNT(北米)	2,292	2,374	4,666	1,907	1,630	3,537	-24.2%	278	-126	152	-528	-75	-603	—
MAC(北米)	7,777	7,374	15,151	8,062	6,216	14,278	-5.8%	1,365	859	2,224	924	433	1,357	-39.0%
MOST(北米)	4,700	3,565	8,265	4,054	2,609	6,663	-19.4%	603	-130	473	47	-127	-80	-116.9%
MST-X(北米)	0	0	0	0	6	6	—	-34	-58	-92	-94	-43	-137	—
MMX(メキシコ)	2,237	2,687	4,924	3,430	2,847	6,277	27.5%	440	648	1,088	971	672	1,643	51.0%
SUNSCO(ベトナム)*	16,589	19,821	36,410	20,250	17,228	37,478	2.9%	1,052	2,111	3,163	1,453	624	2,077	-34.3%
KUMA(インド)	6,013	6,713	12,726	6,480	6,488	12,968	1.9%	542	618	1,160	574	621	1,195	3.0%
MPST(フィリピン)	615	1,036	1,651	1,309	1,373	2,682	62.4%	121	275	396	408	448	856	116.2%
連結調整	-2,607	-3,253	-5,860	-2,833	-3,633	-6,466	—	193	232	425	255	143	398	—
合計	135,173	136,137	271,310	133,506	124,494	258,000	-4.9%	19,268	15,543	34,811	13,000	12,200	25,200	-27.6%

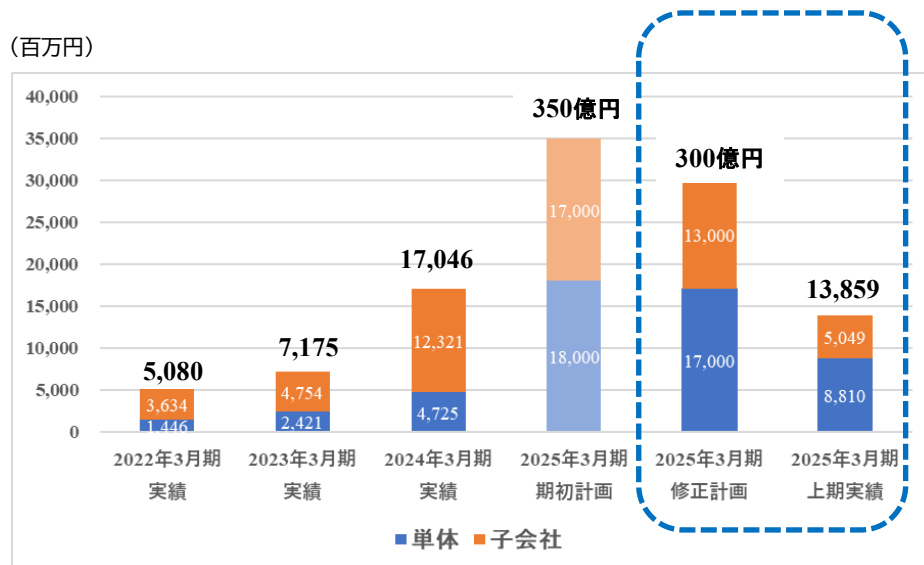




## ▶ 一部投資の期ズレにより設備投資の計画を減額

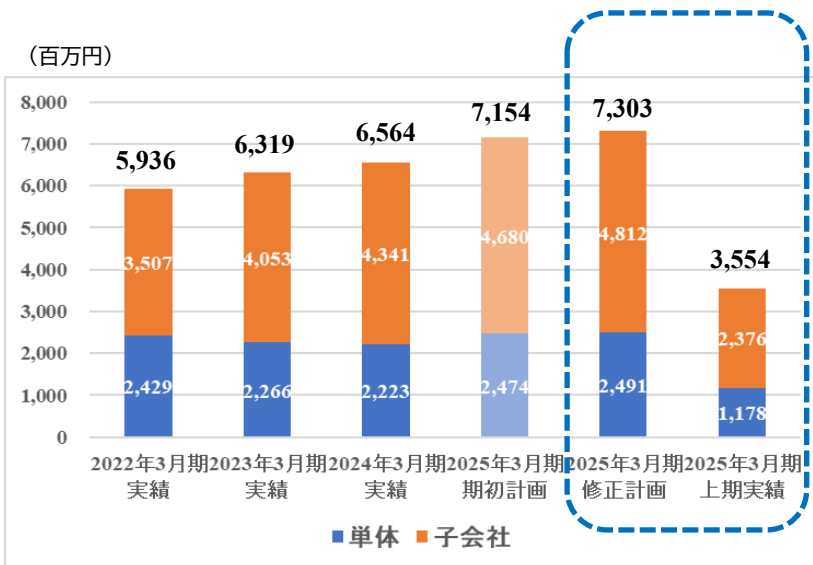
### <設備投資>

(百万円)



### <減価償却>

(百万円)

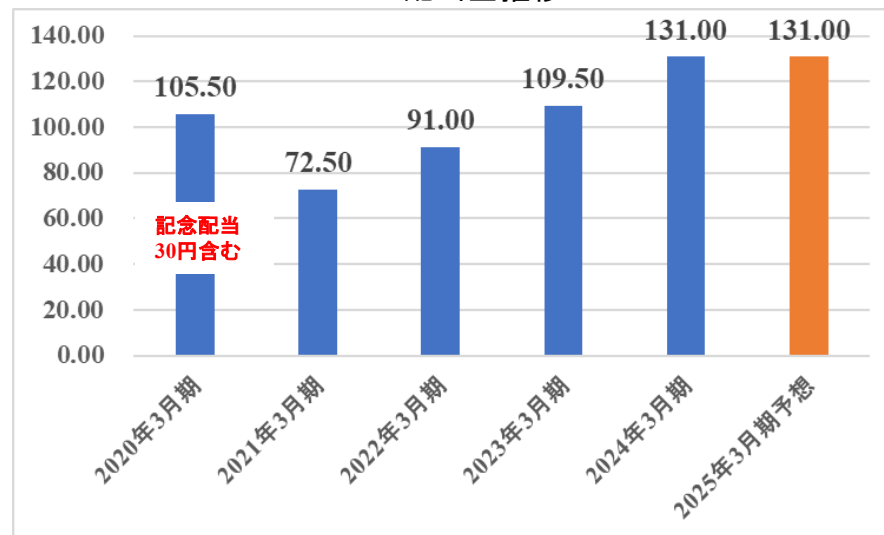


- 配当金予想は2024年5月10日公表時  
131円/株を据え置く
- 前期配当金を維持
- 2025年3月期予想  
連結配当性向 59.2%

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
当期予想 (2025年3月期)	円 銭 —	円 銭 55.00	円 銭 —	円 銭 76.00	円 銭 131.00
前期実績 (2024年3月期)	—	55.00	—	76.00	131.00

(単位:円)

配当金推移



# <参考> ESG情報

弊社統合報告書2024は、以下よりCtrlキーを押しながらクリックしていただければご確認いただけます

[統合報告書2024](#)

## CO<sub>2</sub>排出量削減のコミットメント

国内の丸一鋼管グループにおける2030年CO<sub>2</sub>排出量削減(Scope 1+2)目標を策定しました。

2030年 目標

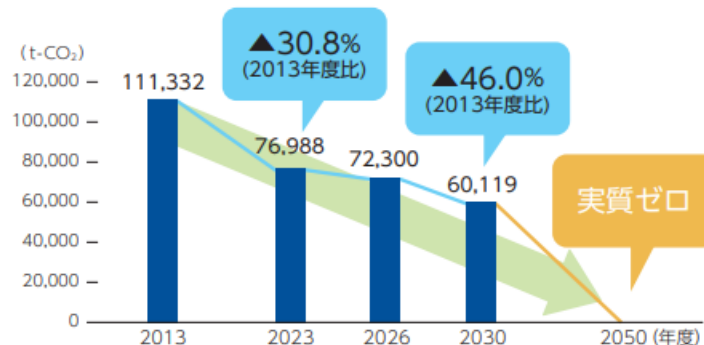
2013年度比で **46%削減**

2050年 目標

**カーボンニュートラル実現**

### CO<sub>2</sub>排出量削減のロードマップ

2030年までは、さらに省エネルギー活動の取組みを進め、低炭素エネルギーへの転換や再生可能エネルギーの活用(自家使用太陽光発電設備設置、再生可能エネルギー由来電力の導入)などによって、CO<sub>2</sub>排出量の削減を推進していきます。



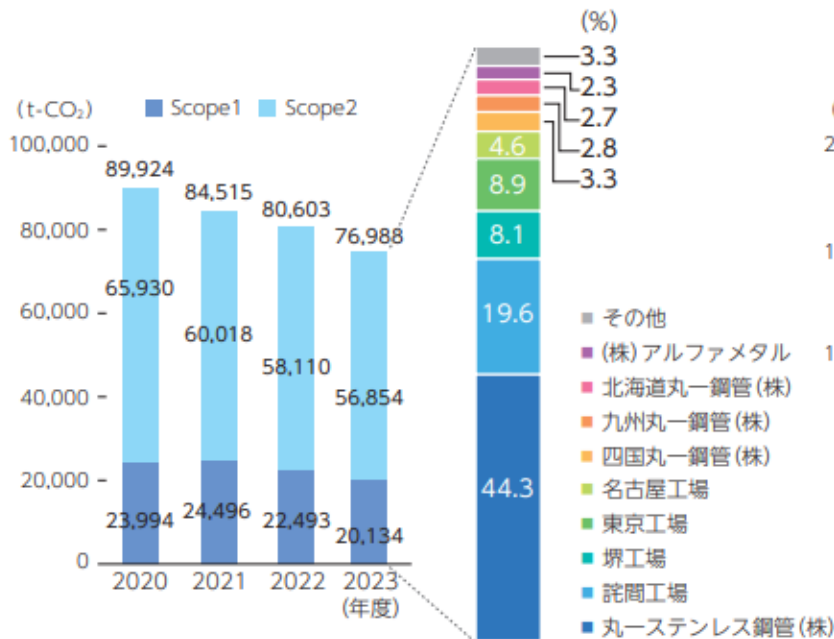
#### CO<sub>2</sub>削減のための主な取組み

~2030年	省エネルギーの推進	2030~ 2050年	省エネルギーの推進
	低炭素エネルギーへの転換 (LPG⇒LNG)		低炭素エネルギーの活用 (水素他)
	再生可能エネルギー由来電力、 カーボンニュートラルLNGの活用		再生可能エネルギーの活用 (太陽光発電 + 蓄電池など) クレジット活用

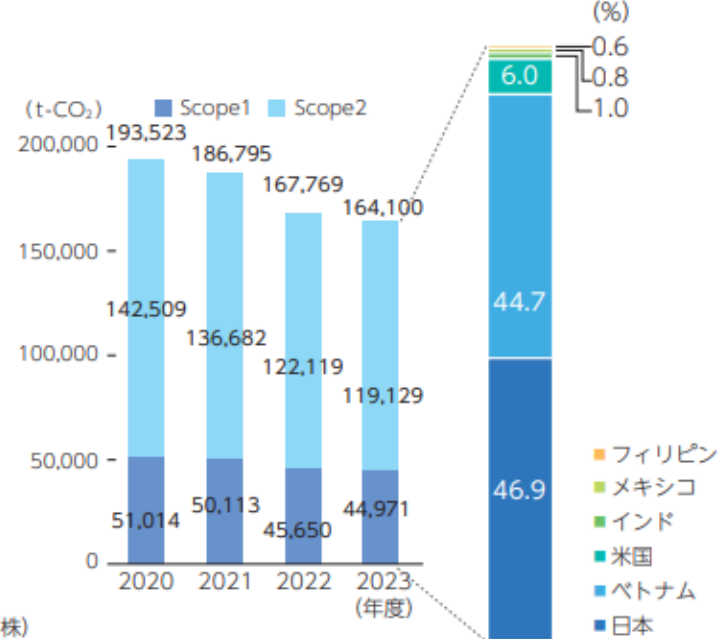


CO<sub>2</sub>排出量実績

・国内Scope1、2推移



・グループ全体Scope1、2推移



## DE&I (Diversity, Equity & Inclusion) の実践

変化が大きく不確実性の高い社会に、企業が持続的に価値を創造していくためには、次のような人材が必要と考えます。

- 多様なバックグラウンドを持つ人材 - 性別・国籍・文化・価値観を異にする多様な人材

こうした「属性の多様性」を「意見の多様性」にしっかりとつなげていくことで、創造性の高い企業文化を育てていきます。

### ■ 女性の活用

もともと男性社会とされる鉄鋼業界において、見落とされがちだった女性の視点を積極的に取り入れることに注力しています。女性の離職を防ぎ、持続的にその能力を発揮できる環境を構築するため、ライフイベントに対応する制度やキャリア形成に向けた研修等を実施しています。また、2030年度には女性管理職比率を5%にすることを目標としています。

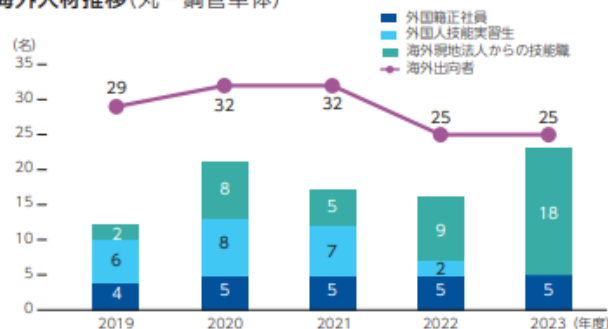


外部研修の様子

### ■ 外国人技能職の人事交流

技能の習得・向上を目的として、海外現地法人から製造現場の生産技能職を国内の各工場で受け入れています。約3年程度の技能習得期間を終えた後は母国へ戻り、現地法人の主要なメンバーとしての活躍を期待しています。

#### 海外人材推移(丸一鋼管単体)



## ■エンゲージメント調査の実施

従業員の意識をデータとして客観的に認識するためにエンゲージメント調査を実施しています。これまでに過去2回実施しており、22年度が59.0、23年度が57.0という結果となりました。23年度は、「支援」「人間関係」「承認」に関する項目のスコアが低下したことが全体スコア低下の要因だと考えられ、特に部署やチーム内での人間関係や信頼関係をより強固にするための取組みを推進し、エンゲージメントスコアの向上に努めてまいります。

### エンゲージメント調査の実施

2022年度	2023年度
59.0%	57.0%

(対象: 丸一鋼管)

## ■従業員を対象として譲渡制限付株式(RS)を導入

2024年9月に丸一鋼管および丸一鋼販の全従業員を対象として譲渡制限付株式(RS)を交付しました。

この制度はMARUICHI 2030 VISIONにおける人的投資の一環で、従業員に長く会社で働いて貢献してもらいたい、そして株主としての目線で会社の業績や株価に興味を持ってもらい、そのことが企業価値向上につながってほしいとの思いで導入しました。従業員とビジョンを共有し、従業員のエンゲージメントを高め、会社と従業員が一体となって企業価値向上に向けて取り組んでいきます。

### 譲渡制限付株式(RS)の概要

発行総額	5,585,138,000 円
発行株数	1,469,000 株
対象者数	636 名
一人当たり平均付与株式数	2,310 株

(2024年9月27日開示)

■社会貢献活動の推進状況

	①文化・芸術支援	②スポーツ振興	③教育・研究支援	④自然環境保護	⑤地域貢献	⑥災害支援
2024年度	正倉院展協賛	大阪マラソン協賛	劇団四季こころの劇場協賛	下鴨神社・糺の森環境保全と文化財保存修理事業	アジア失明予防の会への寄付	
	大阪フィルハーモニー協会協賛	ACN EXPO EKIDEN 2025協賛		天然記念物のアッケシ草の保護、唐島の自然保護	万博サクヤヒメ会議協賛	
		OSAKA夢プログラム協賛			地車in大阪城協賛	

【スポーツ支援】

ACN EXPO EKIDEN 2025  
2025年3月16日（日）

大阪・関西万博を誘致の段階からずっと応援し続けてきました。今回、新たに万博の開催記念駅伝であるACN EXPO EKIDEN 2025の sponsor 「ゴールドパートナー」となることを発表しました。この協賛を通じて、さらに大阪・関西万博を、そして大阪を熱く盛り上げます！

【教育支援】

劇団四季こころの劇場協賛  
2015年度～現在

劇団四季が主催する、子供たちの心に「いのちの大切さ」、「人を思いやる心」、「信じあう喜び」など、人が生きていく上で最も大切なものを、舞台を通じて語りかけたいという趣旨のもと、日本全国の小学生を無料で劇場に招待し、演劇の感動を届ける「こころの劇場」の主旨に賛同し継続的に協賛しています



【自然環境保護】

天然記念物のアッケシ草を保護  
唐島の自然保護

詫間工場(香川県三豊市)敷地内に自生している「アッケシソウ」は干潟や塩田で生育する塩性植物で、秋になると茎および枝の濃緑色が紅紫色へ紅葉する姿からサンゴソウ・ヤチサンゴとも呼ばれています。環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、当社では保護活動に取り組んでいます

主な活動プログラム

【海外医療支援】

アジア失明予防の会への支援  
2015年度～現在

アジア諸国、特にベトナムを中心としたインドシナ半島では眼科医療が充実しておらず、数多くの方が貧困と失明にあえいでいることから、アジアの貧しい国々の人々が、一人でも光をなくさないですむようにと設立され、中心となって無償で医療活動を行っている眼科医 服部匡志氏の活動を継続的に支援しています

資本コストや株価を意識した経営により、企業価値(PBR)向上を目指す

財務戦略基本方針

エクイティスプレッド向上(2023年度スプレッド+1.9%)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ROE(自己資本利益率)	2.4	5.3	9.8	7.9	7.9
COE(株主資本コスト)	6.1	5.3	5.3	5.4	6.0
エクイティ・スプレッド	-3.7	0	4.5	2.5	1.9

直近4年間のスプレッドはプラスを確保できているが、更なる向上を目指す

ROE向上(2023年度 7.9%)

2023年度 7.9%



2026年度 8.0%

財務レバレッジを追わず強固な財務基盤を維持し、事業の本質である営業利益率、総資産回転率の改善を第一義に取り組む

2024年度ROE予想 5.0%

中期経営計画の実現による利益向上

総資産回転率の向上

- ①棚卸資産回転率:  
材料価格変動の大きい海外拠点のPSI管理強化(在庫の質と量を管理)
- ②有形固定資産回転率:  
採算重視の投資により成果への早期結実を推進

株主資本コスト低減(2023年度 6.0%)

株主資本コストを構成するβ値(株価の相対的変動幅指数)低減の取組みを強化

ボラティリティ低減による収益安定性の確保

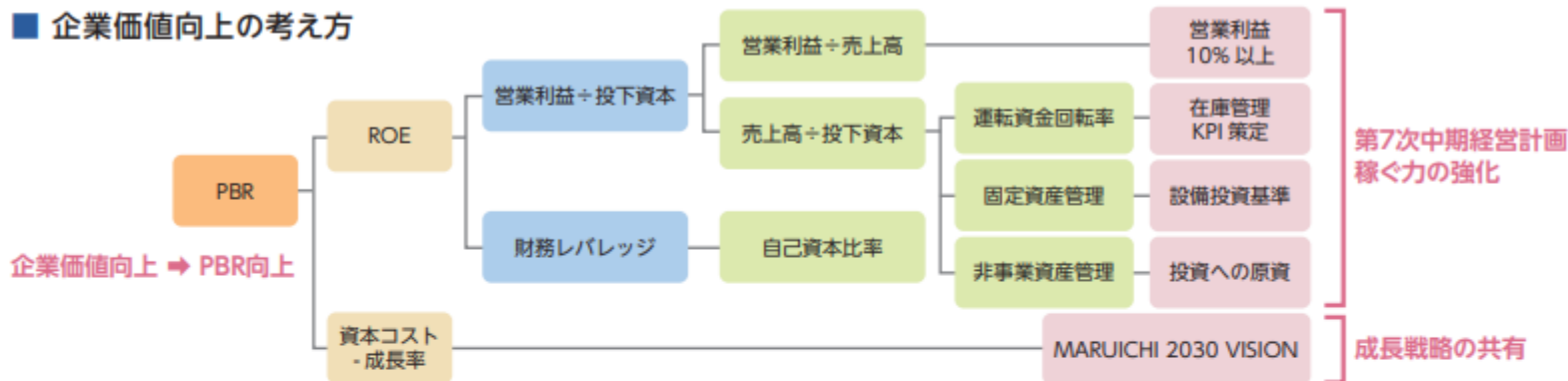
成長事業の推進とコア事業の深化による事業ポートフォリオを分散し、バランスの取れた経営資源を配分

IRの強化

IR室の新設、IRイベント(決算説明会、アナリスト工場見学会、アナリスト懇談会、IR個別面談、IR関連資料などの英文同時開示、HP見直し)を拡充

ESG戦略・人的資本投資・エンゲージメント強化

■ 企業価値向上の考え方



■ 主要財務指標推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高当期利益率 ①	4.10	8.60	12.38	8.84	9.63
(売上高営業利益率)	(9.50)	(11.38)	(16.18)	(10.98)	(12.83)
総資産回転率②	0.51	0.52	0.66	0.74	0.68
(売上債権回転率)	(4.40)	(4.53)	(5.11)	(5.30)	(5.02)
(棚卸資産回転率)	(5.07)	(5.39)	(5.21)	(4.76)	(4.58)
(有形固定資産回転率)	(1.99)	(1.99)	(2.59)	(3.06)	(2.77)
財務レバレッジ③	1.17	1.18	1.20	1.22	1.21
ROE(自己資本利益率)	2.4	5.3	9.8	7.9	7.9

## 将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません  
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります